

R2 学校評価 教職員アンケート		教職員
1	【広報活動の充実】日頃から保護者に学校通信・学年通信・学級通信・ホームページなどを通して、学校教育目標や学年目標・学級目標を保護者に理解されるような努力を行った。	2.9
2	【開かれた学校づくり】家庭訪問やPTA（授業参観や懇談会）、地域の行事への参加（作品の提出なども含む）などを通して、家庭や地域との連携を蜜にし、開かれた学校づくりに努めた。	2.9
3	【特別支援教育】特別支援学級や通級指導教室へ通う児童、全ての子供の実態や困り感を理解し、指導の改善や充実に努めた。	3.3
4	【教育相談】日頃の児童観察や「なかよしアンケート」、家庭から連絡などをおして児童の実態を把握し、適切に対応するように努めた。	3.3
5	【情報管理】児童や保護者・家庭環境などに関する各種の情報の取扱いについて細心の注意を払った。	3.7
6	【やりがいのある職場づくり】学校教育目標を基軸として、全職員による共通目標の下、協働性・同僚性により、やりがいのある職場となるように努めた。	3.3
7	【働きやすい職場環境】児童の様子、協働性・同僚性、また環境面などから、本校は働きやすい職場環境だと感じる。	2.7
8	【教科指導の充実】学力向上のために教材研究に努め、明確な指示や発問の工夫などによる分かりやすい授業の展開に心がけるなど、授業改善に努めた。	3.3
9	【学習環境・学習規律の統一①】分かりやすいめあてを板書し、子供に授業のねらいを明確に指示することができた。	3.3
10	【学習環境・学習規律の統一②】まとめや振り返りの時間を位置づけ、本時のめあてに対するまとめを行い、学習の押さえをすることができた。	3.1
11	【基礎・基本の確実な定着～家庭との連携～】家庭と連携した家庭学習の徹底・充実に努めた。	3.1
12	【校内研修】校内研修の話合いの中で自分の意思を述べたり、研修全体の具体化に貢献するように努めた。	2.8
13	【読書活動】学級（学校）の子供が様々な書籍に親しめるように指導の充実に努めた。	2.9
14	【国際理解】外国語科や外国語活動・総合的な学習の時間などをおして、他国の文化などにふれながら国際理解が深まるように努め、指導の改善や充実に努めた。	2.7

15	【道徳教育の充実】道徳の全体計画をもとにして、年間指導計画（カリキュラム）に沿って、週1回、心に響く道徳料の授業を展開することができた。	3
16	【いじめ0・いじめ防止対策】子供の生活の実態の把握に努め、いじめ0に向けた日常的な取組を行った。	3.5
17	【不登校0】居心地のよい学級・やりがいのある学級・学びがいのある学級を創造し、不登校0に向けた日常的な取組を行った。	3.6
18	【個々への対応】悩みをもつ子供へ適切な対応などを行い、子供相互、教師と子供の信頼関係をつくることができた。	3.3
19	【自己肯定感】子供の良さを見付け、それを全体の場で紹介するなど、あらゆる場面で子供の自己肯定感を高める（子供自身が自分に自身をもつ）指導に努めた。	3.3
20	【あいさつ～基本的な生活習慣①～】いつでも、どこでも、誰にでも（立ち止まって、顔を見て、元気でていねいな挨拶が）できる子供の育成を図った。	3.1
21	【言葉遣い～基本的な生活習慣②～】日常生活や授業の中で友達を思いやる言葉づかいについて考える場を設け、「ふわふわ言葉」を使う指導や場に合った言葉遣いをする意識づけを徹底した。	3.3
22	【落ち着いた生活】落ち着いた学級・学校生活を創造するために正しい廊下歩行や教室移動などの仕方について指導を行うように努めた。	3.2
23	【勤労生産的な活動～もくもく掃除～】共働・黙働による清掃活動を行い、美しい学校づくりにつながる心の指導を行った。	3.2
24	【基礎体力の向上】体育の授業・北小ファイトにおける運動量をしっかりと確保し、また外遊びを推奨し、子供たちの体力づくりを促した。	3.3
25	【健康教育の推進】「早寝・早起き・朝ごはん」や「ノーメディア」などの取組をとおして、健康的な生活の充実に努めた。	3
26	【食育の推進】給食時間や各教科や領域の指導の中で「食」の重要性についての指導を行い食育の推進に努めた。	3.1
27	【安全教育の推進①】交通安全・不審者対応・防災などに関する指導を継続的に行った。	3.4
28	【安全教育の推進②】教室環境や教材の保管など安全への配慮は適切に行った。	3.3
29	【安全教育の推進③】「長与北小学校 生活のきまり」を子供たちが理解し、そのきまりを守った生活が送れるよう、継続的に指導を行うことができた。	3